

会議の概要

令和２年度 第８回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
○ 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和３年１月１４日（火）１８：３０～２０：００

場 所：改善センター１，２階 多目的ホール他

（進行 指導主事 斎藤一範）

１ 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 吉田 都）

みなさん、こんばんは。これより令和２年度第８回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会（以下ＣＳ委員会）を始めます。よろしくお願いします。

２ 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

- おばんでございます。本日は大変お疲れの中ありがとうございます。本年度のＣＳ委員会も第８回目となりました。
- 今回は大きな議題を２つ計画した。一つは、第２回コミュニティ広場の内容の確認、もう一つが、今年度１年間のＣＳ委員会の活動を振り返ってご意見をいただき、それを共有していくことによって次年度へ向けての方向性を定めることだった。
- 第２回コミュニティ広場については最終確認をする予定だったが、本日第６回目のコロナ対策会議があり、新たな事態（感染拡大）に向けて国や県が対策を打ち出してきたために、学校教育活動はじめ様々な活動、会合の在り方などに関して注意を払って取り組まなければならないことが確認された。２月２０日（土）に予定されているコミュニティ広場を従来案通りに行うことは困難になってしまった。形態を変更して何とか実施したいと考えている。

これからＣＳ会長・副会長と相談し、協議の最後のところで皆さんに提案したいと思うので、ご容赦いただきたい。

- 本日は今年度の活動を振り返り、１年間のまとめをよろしくお願いします。

３ おおたま学園コミュニティ・スクール委員会会長あいさつ

（おおたま学園ＣＳ委員会会長 伊藤 和弥）

- 改めましておばんでございます。また、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。
- 今教育長が話した通りだが、私もここに来るに当たって、このコロナには困ったものだな、と思いながら来たところである。相談をし、改めて皆さんに提案したいということであるが、私もコロナ禍であっても何とかできることを前向きに探していければいいと考えているので、そのへんも踏まえて相談させていただければと思う。
- 本日は時間も短縮ということだが、いろいろ気になること等来年に向けて話し合いながら、課題を見つけていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

4 諸連絡

(指導主事 斎藤 一範)

- 本日の日程・内容について

＜本日の重要協議題＞

- (1) 今年度CS委員会活動についての説明

- (2) CS委員会の運営について ※ 会長、副会長は教育長室でコミュニティ広場について

- ① 各園・各校ごとに熟議 相談する。

- ② 全体共有

- (3) 第2回おおたまコミュニティ広場(第12回教育フォーラム)最終打合せ

5 協議

(座長 CS会長 伊藤 和弥)

- (1) 今年度CS委員会活動についての説明 (指導主事 斎藤 一範)

＊資料に基づき説明

- ① 令和2年度の重点(基本方針)について

- 地域学校協働本部との連携・協働を大きな柱にしてきたが、コロナ禍でなかなか思うように進まなかった。今後も継続していきたい。

- オープンスクール(おおたま学園主催の授業研究会)について

今年度大山小学校は時期をずらして実施した。次年度も3回行う計画で、6月は玉井小学校、9月は大玉中学校、11月は大山小学校の予定である。

- 学校関係者評価は大きな柱であるので今後も継続していく。

- 次年度の第3回コミュニティ広場は従来の形で実施する予定である。

- 「おおたま・オータム・フェスタ(第4回)」は、今のところ小・中学校は10月2日(土)、幼稚園は10月15日(金)に実施の予定

- ② 令和2年度おおたま学園CS委員会活動内容について

- 令和2年度は緊急事態宣言の影響でスタートが5月末となった。

- CS委員会は年9回行っているが、最初と最後の2回は各校・園の経営・運営ビジョン等についてで、オープンスクール後の学校運営協議会が3回あり内容は決まっている。残り4回についてどのような形で来年度進めていくかを、今年度の反省を踏まえてこの後話し合っていたきたい。今年度新たに行った内容としては、学校の困りごとや要望等について話し合い、学校とCS委員が課題を共有しながら進めていったことである。

- 次年度「おおたま・オータム・フェスタ」「コミュニティ広場」を計画の中に入れるので、CS委員会の中で検討する活動を行う。全体で9回という回数が適切であるのかも含めて、今年度の内容をもとに、来年度どのようにしていったらよいか、また、今年度気になった点等いろいろ出していただいて、今年度最後の2月のCS委員会に来年度の計画という形で提案したいと思っている。

- (2) CS委員会の運営について

- ① コミュニティ・スクール
委員会の運営についての熟議
(今年度の活動を振り返って
／次年度の活動を見据えて)
※ 各校・園別の班ごとに熟
議を進める。(幼稚園は一
つの部会とする)



② 全体共有

(座 長) 時間になりましたので、全体共有ということで進めさせていただく。まず、幼稚園からお願いしたい。

＜幼稚園班＞（ＣＳ委員 佐藤拓未）

- コロナ禍の中、初めの２ヶ月は大変であったわけだが、ここまで無事幼稚園経営が進められてきたこと、子どもたちを預かり教育していただいたこと、日常と変わらず子どもたちや保護者に接していただいたことにお礼を申し上げたい。
- コロナ禍だからこそ、知恵を絞って、何とか工夫してやることはなしかと考えてきた。毎年行ってきたことも長年の実践の蓄積によって得た結晶ではあるが、手を替え品を替えてできないかを見直し、トライしたことによって、結果として「こういうやり方でもいいのではないか」という気付きもあった。考え方次第では「とてもよかったのではないか。」という意見も出された。
- コロナ禍で進めてきたので、このＣＳ委員会も前年との比較は難しい。今年は、開催等について、適宜その時々現場の先生方が子どもを中心に考えながらどうしていくかを判断しながら決定し、取り組んできた。その結果、感染者が一人も出なかった。

そして、保護者も日常生活に気を配ってきた結果が今の状態であると思うので、ひとまず計画を立案していただき、その時々状況に応じて臨機応変に判断していければよいと考える。



＜大山小班＞

（校長 舘脇 一弘）

- 幼稚園の話聞き、全くその通りで、このコロナ禍の中よくやってきたと思う。計画はあっても、その都度判断していくようにすればよい。
- 今年度、学校の困りごとを入れてもらいとてもよかったので、次年度もぜひお願いしたい。
- 学校運営協議会では、ＣＳ委員から提案というより、教職員から提案して欲しいと思っている。
- 温かな言葉（「先生方、大変ではなかったでしょうか。」等）をいただいた。行事については、精選というか、実施方法を工夫することによって、教職員の多忙化を解消していくようにしたい。
- ボランティアについても意見が出された。今年度学校支援ＣＮの笹山さんが学校に来てくれることによって、コロナ禍ではあったが、学校支援ボランティアに大変お世話になることができた。

＜玉井小班＞（校長 小林 雄）

- コロナ禍ということで、学校の困りごとについてＣＳ委員会でいろいろ聞いていただき、学校として非常にありがたかった。（コロナがあったからこそ、こういうことができたとも考えられる。）こういうことが大事なんだと思う。来年度も取り入れてほしい。
- 学校には、学校支援ボランティアがたくさん入って協力していただいている。そういう方々とＣＳ委員会との交流や熟議などをする場があってもよい。地域学校協働本部との連携をより図れるのではないだろうか。



- 教職員とＣＳ委員とのつながりが深まるような取り組みもあるとよい。学校でも考えていきたい。

＜大玉中班＞（校長 安田 浩明）

- 今年はコロナがずっと続いている１年であったが、そんな中でＣＳ委員の皆さんの力や応援が心強く思われた。時には力強い応援が行政を動かし、コロナ対応につながったこともあったのではないかと。学校としては、これほど頼りになるという力強い応援はない。



- 学校の取り組みや子どもたちの活動等、これをもっと広く伝えるための発信方法を工夫する必要があるのではないかと。せっかくの取り組みや子どもたちの頑張りが分かってもらえず終わってしまうのは残念である。発信するための具体的な方法についても意見が出された。
- 学校としては、コロナ禍によって、できること・やりたいことが今年は中止になったり、制限があったりして難しい場面もあった。しかし、それはそれとして、代わるものを工夫し、子どもたちの活動を止めないということでＣＳ委員を含め村のいろいろな方々に応援していただいた。そして、この場でも子どもたちの未来のために真剣に何かできないかという話し合いができたと思う。



（座長）ありがとうございました。各校・園の話を聞き、コロナ禍の中であっても、前向きに「できることはないか」「よりよくできるのではないかと」模索しながら、できる範囲内で実践されてきたことが感じられた。来年度に向けても、コロナがどういう状況になるか分

からないが、その時々状況を共有しながら、臨機応変に活動したり、工夫して活動したりしていくようにすればいいのではないかと。

また、教育委員会としても、常に前向きにいろいろな活動に対して考えている。そんな思いが各校・園に伝わり、校長（園長）先生を中心に、創意工夫をしながら積極的に活動しているということはこの１年ずっと感じていたところである。

他に質問があればお願いしたい。

（全員） ～ 特になし様子 ～

（３）第２回おおたまコミュニティ広場（第１２回ワークショップ）最終打合せ

① 変更内容の概要説明

（指導主事 斎藤 一範）

- コミュニティ広場、２月２０日（土）に開催せず、第１部をYouTubeでのビデオ配信に変更する。
- YouTubeでの配信時間は、学校と相談の上、参加者及び保護者へ周知する。
- 第１部の各学校の発表については、各学校でビデオ撮影していただき、教育委員会で集約し、YouTubeで配信する。
- コミュニティ広場への参加予定者に対して、あらかじめ、YouTubeのQRコードと感想用紙を送付し、発表を視聴後感想用紙を教育委員会に送付いただく。

- 送付いただいた感想を教育委員会で集約する。集約した内容をＣＳ便りにまとめ、村内全戸に配付し家庭・地域社会への周知を図る。
- YouTubeでの配信については、村内幼稚園、小・中学校の保護者へもお知らせする。
- この後、ＣＳ委員の皆さんにいろいろ案を出していただければ有り難い。

② 質 疑

(座 長) 先ほどこの話を聞いたわけだが、機材等を今までも使っているということなので、こういう方法ならできるということでお話いただいた。

(吉田副会長) この状況の中でもできる方法として提案していただいた。よかったと感じた。

以前休校中だった時に、子どもたちが週１回の学校からの配信を楽しみに待っていて、視聴していたことがあった。私自身はスマホとかがとても苦手だったのだが、子どもに教えてもらいながら一緒に見ていた。村や県はノーメディアを推奨しているのだが、メディア全部がダメだということではなく、メディアをこんなふうに使うことによって子どもと話すよいきっかけになるのではないだろうか。

(座 長) 今年は子どもたちが発表するのを皆が集まって聞く機会をなかなかもてなかったのだが、今回の方法で、“ＣＳの活動でこういうコミュニティ広場を開いている”というＰＲにもなるのではないかと考える。ＱＲコードは参加者、保護者やＣＳ委員等に周知するというのである。家にいるおじいちゃん、おばあちゃんなどを含め、家族みんなで見た感想を述べ合ったりするよい機会にもなるのではないか。

本来は、第２部で双方向の話し合いを行い、いろんな意見を積み重ねることによって、おもしろいアイデアが生まれることがあるのだが、このような状況であるので、家族で見ただいて、「ＣＳ活動はこんな感じだよ。」「おもしろいことやっているな。」「じゃあ来年は参加してみようかな。」と言ってもらえるようにしたい。

委員の皆さんの意見をお聞きしたい。

(斎藤委員) いいと思う。私の知り合いでも子どもが受験生で去年の１２月から人と会えるのを控えているという人もいる。今年になってからすごい勢いで増えてきていて、そういうことを考えると、人と接触しないで、なおかつコミュニティ広場を実施できるのであればとてもいい案なのではないか。

(渡邊委員) コミュニティ広場を毎年行っているので続けていければいいとは思いますが、現状では、例年と同じ方法で実施することは困難である。今、人に会うことや会議等についてもいつものパターンではないということから、止めると言ってしまえば簡単なことではあるが、いつものパターンではなく、形を変更して続けていく努力は大切だと思う。

(佐藤副園長) この感染状況の中で一堂に会するのは不安に感じていた。今回、このような形での開催方法を提示していただいて、このことで保護者も子どもたちと一緒に見て、感想を述べ合うことも可能になるので良い案である。こういう方法を逆に幼稚園でも取り入れられれば、別のことで家庭に配信することもできるのではないかと思った。



(佐瀬委員) 賛成。安心できるよい案である。

(國分委員) YouTube での配信によって、もしかすると、コミュニティ広場を視聴する人はこの会場で行うよりも多く（倍以上）の人数になるし、また、通常興味のない人であっても「YouTube ならちょっと見てみようかな。」と考えることも期待できる。とてもよいPRになるのではないと思う。

(座 長) 意見をいただきありがとうございました。本当なら全員にお聞きしたいところだが、時間がなくなってきたのでこのへんで終了する。

第2回コミュニティ広場に関しては、提案いただいた変更案で進めるということで決定する。案の細かな部分についてだが、CS委員としてやらなければならないことがあるのであれば、早めに知らせていただければお手伝いできるので、斎藤先生に調整をお願いしたい。

(斎藤指導主事) コミュニティ広場の詳細については、学校と相談しながら決めていくようにする。

6 その他

(指導主事 斎藤 一範)

(1) 各校・園主催の学校関係者評価について

- 今後各校・園から学校関係者評価委員会の案内が出される。
- 次回のCS委員会で、各校・園の評価結果についてリーダー（委員長）に説明いただく。

(2) アンケート「今年度の成果と課題」の提出について

- 提出は2月5日（金）までをお願いしたい。（電子メール、FAX可）

(3) 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 栃木市（2月5日）について

- デジタルフォーラムとして配信する形での開催に変わった。（YouTube で配信予定）

(4) 次回（最終）の予定 2月25日（木）18：30～

- 令和2年度各校・園学校関係者評価に関する報告
- 令和3年度各校・園の経営・運営方針の説明及び承認
- 令和3年度おおたま学園CS委員会の運営について
- その他

7 閉会のことば

(おおたま学園CS委員会副会長 大山 明美)

以上をもちまして令和2年度第8回おおたま学園CS委員会を終わります。ありがとうございました。